

令和7年度 第2回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立出来島支援学校
校長名	武 田 幸 造

開催日時	令和7年 10 月 27 日(月) 13:15～15:10
開催場所	府立出来島支援学校 4階 会議室
出席者 (委員)	重田会長(大阪府教育庁教職員室)、瀧本副会長(大阪成蹊大学)、石川委員(PTA) 藤木委員(出来島地域活動協議会)、朝井委員(株式会社あしすと阪急阪神)
出席者 (学校)	武田校長、小野教頭、樋口教頭、木崎事務長 花谷首席、上戸首席、和田首席
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度 学校経営計画及び学校評価(10 月進捗状況) 令和7年度 学校教育自己診断の実施について 令和7年度 前期授業アンケートについて
議題等(次第順)	
1. 校長あいさつ 2. 令和7年度 学校経営計画及び学校評価について(進捗報告) 3. 令和7年度 学校教育自己診断の実施について 4. 前期授業アンケートについて 5. 事務連絡	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
2. 令和7年度 学校経営計画及び学校評価について(進捗報告) ➡中期的目標1、今年度の重点目標(1)(2)について校長、担当首席から報告 委員) 研究授業に関する指導助言を実施して、先生方からどのような質問があったか？ 授業づくりの指導に関して、実態把握についてはどのような研修をされているのか？ 校長) ひとつの学習グループで、児童生徒の個性が非常に高い、課題の幅が広いという学習グループについては、先生方が授業の進め方に悩んでいることを実感している。実態把握については個別の教育支援計画の中に A ² というアセスメントツールがある。すべての子どもたちの状況が数値化、レーダーチャート化される客観的指標がある。併せて、学習指導要領に沿った基本シラバスに準じて授業づくりをすすめるようにしている。 委員) 基本シラバスの見直しについて、教務でしかけを考えているのか？ 担当首席) まずは国語、算数・数学、社会、職業といった教科から、賛同者を募って見直し作業をすすめている。非常に膨大な作業であるため、無理のない形で、少しずつ広げていきたい、すすめていきたいと考えている。	

⇒中期的目標2、3、4について、活動時の映像を交えて担当首席から報告

委員)

「掃除・清掃」に係る学習活動や職業科目に係る取り組みは、全校児童生徒が体験できるものなのか？

担当首席)

高等部の清掃については、グループを絞って取り組んでいる。中学部の就業体験実習は、中学部全員が参加できる。

委員)

就業体験実習は高等部1年生でも実施されるか？

担当首席)

高等部では活動の場を広げていく形で、校外での現場体験実習が中心になる。早い人で1年生の後期から。2年生になると全員対象で校外での実習に取り組んでいる。

⇒中期的目標5について、校長より進捗の報告

委員)

以前の勤務校で行った教員のスポーツ大会は学部を越えて先生方のコミュニケーションが図れる良い機会となった。

校長)

教員からも同好会の希望を聞いている。労働安全衛生委員会で諮ってみると回答している。

委員)

学校経営計画の中期的目標「2」以降については、十分に良い形ですすんでいる。「1」については大変な課題になっている。先生方で根気よく検討を重ねてほしい。

3. 令和7年度 学校教育自己診断の実施について

⇒昨年度からの変更点を中心に、担当首席より報告

委員)

任意で回答を求める場合と、校内で一斉に実施する方法では回答率も異なってくるが？

担当首席)

授業時間での実施というよりは、自宅で保護者と一緒に回答していただくことを最初に考えた。今年度は、紙資料での提出もできるように変更したので、Google フォームのみでの実施と、紙でも回答できる方法を併用した回答率の比較を行い、より良い方法を選択したい。

委員)

設問9「先生は、あなたのことをわかってくれますか。」について、設問の範囲が広く感じられる。文言を変更する必要はないが、設問の意図を統一して回答できるような工夫があると良い。

担当首席)

設問2「先生は、わたしたちのことを大切にしてくれますか。」についても、昨年度にご意見をいただいた内容でもある。補足説明ができるよう検討したい。

委員)

高等部3年生が在籍した際には、絵文字(イラスト)が入っていないような、生活年齢にも応じた様式も検討しても良いかと思う。

4. 前期授業アンケートについて

⇒アンケート結果や自由記述のまとめからの考察を教頭から報告

委員)

子どもたちが何かを質問されると「はい」と答える傾向が多いと聞いたことがある。このアンケートにも反映されるかどうかはわからないが、先生方が感じられている実態としてはどうか？

首席)

教員は、それぞれの生徒の「はい」の背景を、実態把握を含めて注視しなければいけないと感じている。

委員)

昨年度評価が低かった「お子さまは、意欲的に授業に取り組めていましたか」の設問に対して、どうして保護者が意欲的に授業に取り組めていないと感じているのか、意見が聞きたい。

教頭)

教員から個別の働きかけや支援があって授業内容に取り組むことができる児童生徒や、順番で作業を行う授業展開があると、待つ時間や離席がある場面がある。その姿を保護者の視点で評価すると、必ずしも「意欲的」とは受け取っていただけなかったり、教員のしかけ不足もあったかもしれない。

委員)

何もしていないから「意欲的ではない」のではなく、自分で考えている時間を保護者の方がどう汲み取っているかどうか。教員と保護者の認識に矛盾があるかもしれない。

委員)

保護者からすると、子どもに対する授業への姿勢を含めて、厳しめの点数をつけてしまうかもしれない。

首席)

児童生徒には学校での姿と、家庭での姿があって、教員の視点と、保護者の期待が異なっているところも一部あるのかもしれない。

委員)

児童生徒の学校と家庭での姿を、教員と保護者が情報交換して、理解し合うことが大切であると感じる。

次回の会議日程

日時	令和8年1月～2月頃
会場	府立出来島支援学校 4階 会議室